（23）用語集

【用語集】

	用　語	解　説
あ行	硫黄酸化物（SOx）	硫黄の酸化物の総称で、一酸化硫黄、三酸化二硫黄、二酸化硫黄、三酸化硫黄、七酸化二硫黄、四酸化硫黄等があり、通称ソックス（SOx）ともいう。石油や石炭等の化石燃料など硫黄分を含んだものを燃焼するときに排出される。
	一酸化炭素(CO)	炭素を含む燃料が不完全燃焼する際に発生し、主な発生源は自動車である。一酸化炭素が体内に吸入されると、血液中のヘモグロビンと結合して酸素の補給を妨げ貧血を起こしたり、中枢神経を麻痺させたりする。
	インセンティブ（incentive）	刺激、動機、報酬金をいう。意欲を掻き立てる要因を広く指す用語として用いられる。
	インターロック	ある操作を行う時、誤操作や確認不足により適正な手順以外の手順による操作の防止、正常な製造・運転条件を逸脱した時、自動的に設備への原材料等の供給を遮断するなどの製造や機器運転の制御をいう。
	雨水浸透施設	雨水の流出量を抑制するため、雨水を地下に浸透させる施設をいう。 浸透トレンチ、浸透ます、道路浸透ます、浸透側溝、透水性舗装等の施設がある。
	渦電流	金属板（アルミニウムなど）を強い磁場内で動かした際に、電磁誘導効果により金属内に生じる渦状の誘導電流をいう。これにより磁力が発生する。
	上乗せ基準	水質汚濁防止法第3条第3項に基づき、都道府県が国の定める一律の排水基準にかえて適用するもので、政令で定める排水基準より厳しい基準をいう。
	液状化	地震の際に、地下水位の高い砂地盤が振動により液体状になり、比重の大きい構造物が埋もれ、倒れたり、地中の比重の小さい構造物（下水管等）が浮き上がる現象をいう。
	エコノマイザ（節炭器）	ボイラーから排出されるガスから熱を回収して給水の予熱に利用する装置をいう。
	エネルギー回収型廃棄物処理施設	環境省の交付要綱上の正式名称で、本計画の次期焼却施設が該当する。
	エネルギー回収率	発電効率と熱利用率の和をいう。 エネルギー回収率＝発電効率＋熱利用率

	用　語	解　説
あ行	塩化水素（HCl）	塩素と水素の化合物をいう。常温においては刺激臭を有する無色の気体として存在し、水に溶解することで塩酸となる。
か行	外部取り出し電力	売電および外部への供給電力をいう。
	カウンターウェイト	エレベーターやクレーン、油圧ショベルなど、各種機械装置に用いられ、重心から離れた位置に荷重がかかった時に重心の移動が許容範囲内に収まるよう荷重とのバランスをとる重りをいう。
	カスケード利用	資源やエネルギーを１回だけの使いきりにするのではなく、利用したことで性質が変わった資源や、利用時に出る廃棄物を別の用途に使い、その後もさらに別の用途に活かす、というように、高レベルの利用から低レベルの利用へと、多段階（カスケード）に活用すること。
	ガラスカレット	破砕された状態のガラスをいう。
	環境アセスメント（環境影響評価）	開発事業の内容を決めるに当たり、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して一般の市民、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境保全の観点からよりよい事業計画を作成する制度をいう。
	還元剤	還元作用をする物質、すなわち他の物質から酸素を奪ったり他の物質に水素や電子を与える働きをする物質をいう。
	還元雰囲気	ガス中に、水素・一酸化炭素・硫化水素・二酸化硫黄など還元性ガス（酸素を奪う性質を持つガス）が多く含まれる状態をいう。逆に、酸素・オゾン・二酸化窒素などの酸化性ガスが多ければ酸化雰囲気という。
	90%信頼区間	データが正規分布する時、平均値が90%収まる区間をいう。100回サンプリングしたら、90回はこの範囲内に値が当てはまることをいう。
	協定値	周辺住民と締結した公害防止協定に基づいた排ガスの排出基準値等をいう。
	ケミカルリサイクル	リサイクルの一種で、使用済みの資源を化学反応により組成変換をした後にリサイクルすることをいう。廃プラスチックの油化・ガス化や廃食用油等のバイオガス化等をさす。

	用　語	解　説
か行	現在価値	将来に発生する価値を現在の価値に換算したもので、将来の価値に対し割引率で割り戻すことで計算する。一般的には、t 年後の R 円の現在価値は、割引率を i としたとき、下式にて計算される。 　t 年後の R 円の現在価値＝$R/(1+i)^t$ 例えば、割引率が年4%のとき、10年後の100万円は、現在の68万円（＝100万円÷1.04^{10}）に値する。これは、将来に亘り年利4%で資金100万円を運用できるとした場合に、10年後（将来）の資金は増額され148万円（＝100万円×1.04^{10}）になるが、10年後の100万円を現在の価値に換算した場合に、68万円に値することを意味する。
	元素	物質の基本単位である原子の種類であり、水素や酸素、鉄等、約90種が自然界において知られている。
	建ぺい率	敷地面積に対する建築面積の割合。
	高効率発電	ごみの持っている熱量を最大限に活用するため、発電に用いる蒸気をより高温・高圧化し効率を高めることをいう。
	コージェネ	「Cogeneration」の略で、内燃機関、外燃機関等の廃熱を利用して動力・温熱・冷熱を取り出し、エネルギー効率を高める、新しいエネルギー供給システムのひとつをいう。 内燃機関：内部で燃料を燃やして動力を得るもの。（エンジン） 外燃機関：外で燃料を燃やして動力を得るもの。（タービン）
	洪水調節容量	洪水時に下流への影響を防ぐ目的で、放流量を調節するために必要な調整池等の容量をいう。
	高度区域	市街地の環境の維持や土地利用の増進のために建築物の高さの最高限度または最低限度を定める区域をいう。
	公募型プロポーザル	業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定する方式をいう。
	高炉水砕スラグ	高炉から生成する溶融スラグに多量の圧力水を噴射することにより急冷した砂状のスラグをいう。
	ごみ質	ごみの物理的あるいは化学的性質の総称であり、通常、三成分（水分、可燃分、灰分）、単位体積重量（見掛比重）、物理組成（種類別組成）、化学組成（元素組成）及び低位発熱量等をいう。

	用　語	解　説
か行	ごみ発電	廃棄物のエネルギー活用のひとつで、ゴミを焼却処分する際の余熱を利用して発電する方法をいう。
	コンポスト	有機物を微生物によって完全に分解した肥料をいう。
さ行	再生エネルギー	太陽光や風力などの自然の力や廃棄物などを活用するため、枯渇する心配がなく、繰り返し使うことができるエネルギーをいう。
	里山	集落、人里に隣接し、原生的な自然と人里（都市）の中間に位置し、人間の影響を受けて環境が形成・維持された山をいう。
	サーマルリサイクル	廃棄物の再利用方法のひとつで、廃棄物を焼却する際に発生する熱エネルギーの回収・利用をいう。
	三成分	湿りごみ中の水分、可燃分、灰分をいう。
	市街化調整区域	市街化を抑制し、優れた自然環境を守る区域として、開発や建築が制限されている区域をいう。
	磁界	磁石の周りや電流が流れている物の周りに発生する、磁気がはたらく空間をいう。
	支持層	土質試験においてN値（エヌチ）50という硬い地層が5m以上連続する層をいう。 N値：鋼製のロッドを錘により地盤に30cm叩き込む時の打撃回数
	指定管理者制度	地方自治体が所管する公の施設について、管理、運営を法人(民間事業会社を含む)やその他の団体に委託することができる制度で、平成15年に制定された。指定管理者への過度な負担要求や指定期間が短いことによる人材育成・設備投資への阻害等の課題を踏まえ、総務省が平成22年に「指定管理者制度の運用について」を通知し、企業評価における「財務的評価」と「社会的評価」を意識することを求めた。
	施設園芸	ビニルハウス等を利用して野菜、果樹等を栽培する園芸をいう。
	施設かし	施設に生じた欠陥をいう。
	持続可能性	生物資源（森林等）を長期的に維持することが可能な利用条件を満たすこと。自然資源や環境汚染が適正に管理され、経済活動や福祉の水準が長期的に維持可能なことをいう。

	用　語	解　説
さ行	臭気指数	あらかじめ嗅覚が正常であることの検査に合格した被検者が臭気を感じなくなるまで、試料を無臭の空気で希釈したときの希釈倍率（臭気濃度）を求め、その常用対数値に10を乗じた数値をいう。 臭気指数＝10×log（臭気濃度）
	ジュール（J）	エネルギー、熱量等の単位をいう。（1cal=4.184J） 国際的な単位としてカロリー（cal）は認められていない。
	純度	品質の純粋さの割合をいう。異物が混入するほど割合は小さくなる。破砕処理設備で処理・回収した資源物（鉄・アルミ等）に対する有価物の割合であり、買取り価格等に影響する。
	消石灰サイロ	排ガスの塩素系成分を除去する為の消石灰の貯蔵庫をいう。
	蒸気ボイラ	火気、燃焼ガスその他の高温ガスまたは電気により、水または熱媒体を加熱し、高圧の蒸気を発生させる装置をいう。
	徐冷スラグ	溶融スラグを大気中で空冷や散水等により凝固、冷却したものをいう。
	触媒	一定温度での化学反応の速度を増大させながら、反応終了後も反応前と同じ状態で存在する物質をいう。 例：砂糖に酸を加えると加水分解が促進されるが、酸自体は変化を受けない。
	振動レベル（dB）	振動の加速度レベルに振動感覚補正を加えたものの単位をデシベル（dB）という。
	スキーム	計画・体系・枠組みをいう。
	スターリングエンジン	19 世紀初頭に、スコットランドの牧師ロバート・スターリングによって発明された人に優しい＝安全な“熱空気エンジン”。スターリングエンジンを加熱するエネルギーは化石燃料のほか、各種バイオマスや太陽熱、廃熱が利用できる。
	スラリー	泥状又は粥状の混合物で、固体粒子が 液体の中に懸濁している流動体をいう。

	用　語	解　説
さ行	生物多様性	自然生態系を構成する動物、植物、微生物など地球上の豊かな生物種の多様性とその遺伝子の多様性、そして地域ごとの様々な生態系の多様性をも意味する包括的な概念である。そして、地球の生態系の中では生物が刻一刻と生まれ、死に、エネルギーが流れ、水や物質が循環しているが、こうした自然界の動きも視野に入れた考え方である。生物多様性は遺伝子、種、生態系の３つのレベルでとらえられることが多い。
た行	ダイオキシン類（DXNs）	有機塩素化合物であるポリ塩化ジベンゾパラジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーPCBの総称であり、他の多くの化学物質と異なり、製造を目的として生成されたものではなく、物の燃焼や化学物質の合成等の過程で副産物として生成され、大気中では極めて安定しており、生物に対する毒性の強いものが多い。
	ダイオキシン類再合成	ダイオキシン類は完全燃焼によって、生成を防止できるが、300～400℃の温度帯になると、再び生成されてしまう。これをダイオキシン類の再合成という。
	ダイオキシン類前駆体	焼却により発生するダイオキシン類と高度に相関の高い状態で発生する物質をいう。特に、クロロベンゼン類が知られている。 ダイオキシン類に比べ発生量が多いことから、分析が容易で、分析結果と相関性からダイオキシン類の発生量が把握できる。
	耐浪性	台風による高波、津波に耐える強さをいう。
	タール	有機物質の熱分解によって得られる、粘り気のある黒から黒褐色の油状液体をいう。
	単位体積重量	単位体積当たりの重量をいう。 水（4℃）では1cm^3当たり１ｇで1g/cm^3と表す。
	窒素酸化物（NOx）	窒素の酸化物の総称であり、一酸化窒素、二酸化窒素、一酸化二窒素、三酸化二窒素、五酸化二窒素等が含まれ、通称ノックス（NOx）ともいう。大気汚染物質としての窒素酸化物は一酸化窒素、二酸化窒素が主であり、工場の煙や自動車排気ガス等の窒素酸化物の大部分は一酸化窒素である。
	チャー	ごみの熱分解ガス化の際に精製する炭素物質をいう。

	用　語	解　説
た行	調整稼働率	予定外の修理、やむを得ない一時休止等のため、処理能力が低下することを考慮した係数をいう。
	調整池	集中豪雨などの局地的な出水により、河川の流下能力を超過する可能性のある洪水を河川に入る前に一時的に溜める池をいう。
	低位発熱量	ごみ中の水分及び可燃分中の水素分が水蒸気となる際の蒸発熱量をいう。潜熱を高位発熱量（熱量計で測定される総発熱量）から差し引いた実質的な発熱量である。
	低空気比運転	燃焼空気比を低下すると排ガス中のNOx濃度が低下する。NOx濃度の低下を目的に、低空気比で燃焼する運転を低空気比運転という。
	データセンター	大量のデータを保管するための専用の施設をいう。複数の通信業者による高速の回線が引き込まれており、無停電電源装置（UPS）や自家発電装置を備えており、セキュリティや耐震性にも優れている。
	データバス	コンピュータ内部のデジタル信号の伝送路の一部でデータ本体の伝送を行うための装置をいう。
	展開検査装置	搬入したごみに適正でないごみが含まれているか検査するために、ごみ投入扉の前でごみを広げて確認するための装置をいう。
	等価係数	電気によるエネルギー利用と熱によるエネルギー利用を共通の指数で整理するため定義した指数をいう。回収された熱エネルギーから電気と熱を生産する効率の逆数の比から算定したもので、エネルギー回収型廃棄物処理施設整備マニュアル（環境省）では、熱の有効利用量に対して 0.46 を乗じて、電気と等価に扱うものとしている。
	動線計画	施設中を車両や人が動く時に、通行すると思われる経路のパターンを予測し、より安全・効率的に移動ができるように考慮した配置計画をいう。
	ドレン管	雨水、雑排水、汚水などを排水するための管をいう。 冷房機器（エアコン）の結露水などの排液をドレンという。
な行	熱交換器	熱エネルギーを異なる 2 つの流体間で移動させるための機器で温水器等をいう。

	用　語	解　説
な行	熱しゃく減量	焼却灰をもう一度よく燃焼させたときの、重量の減少率をいう。焼却灰の中に燃え残りが含まれているため、再燃焼することで可能な限り重量を減らすもので、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」では、熱しゃく減量は10%以下でなければならないと定められている。
	熱収支	熱エネルギーの出入り（収支）をいう。 外部から受け取る熱や内部で発生する熱（ごみ、補助燃料）と外部へ放出する熱や内部に蓄積される熱のバランスを算定したものをいう。
	熱利用率	ごみ焼却施設内外へ供給された熱量のうち、供給先で有効に利用された有効熱量に電気/熱の等価係数を乗じた熱量を入熱で除した割合をいう。 熱利用率＝有効熱量×0.46×100／投入エネルギー（ごみ＋外部燃料）
は行	背圧タービン	蒸気タービン出口の圧力を大気圧以上で運転するタービンをいう。
	ばいじん	「ばい煙」のひとつで、焼却に伴い発生したすすや燃えかすなどの固体粒子状物質をいう。
	バイナリー発電	地熱発電の発電方式のひとつ。バイナリーサークル発電、地熱バイナリー発電とも呼ばれる。低沸点媒体を利用することにより、媒体の加熱源として、低温の蒸気や熱源を利用することができる。
	廃熱ボイラ	焼却による廃熱を蒸気として回収する装置をいう。
	排ガス再循環方式	燃焼により発生した排ガスを再び燃焼空気として利用するもので、エネルギーを無駄なく利用することができ、NOxの発生を抑制する効果もある方式をいう。
	排ガス最大着地濃度	煙突から排出された排ガスが拡散し、地上に着地するときの最大濃度をいう。
	発電効率	発電された電力と投入エネルギーの比をいう。 発電効率＝発電出力×100／投入エネルギー（ごみ＋外部燃料）
	バーナーワーク	ガラスの成形技法の一種で、バーナーの炎によってガラスを溶融し、成形することをいう。

	用　語	解　説
は行	ハニカム構造	正六角形または正六角柱を隙間なく並べた構造をいう。 広義には、正六角柱に限らず立体図形を隙間なく並べたもの（3次元空間充填）をハニカムと呼ぶ。
	日影規制	中高層建築物によって近隣の敷地に生じる日影を一定時間内に抑えて、近隣の日照を確保するための建築基準法（第56の2条）上の規制をいう。 地方公共団体が条例で指定する区域内にある一定の高さ以上の建物が冬至の日の午前8時～午後4時まで（北海道のみ午前9時～午後3時まで）の間、その場所に一定時間以上続けて影を生じさせないよう建物を計画することを義務付けるものである。
	火格子	耐熱性の鋳物製ブロックのことで「ストーカ」という。 この火格子（ストーカ）を重ねてごみを燃やす床を作り、燃焼用の空気を火格子の下部から送り込み、火格子上のごみを燃やす構造の焼却炉をストーカ式焼却炉という。
	標準偏差	データのばらつきの大きさを示す値をいう。
	フェールセーフ	故障や操作ミス、設計上の不具合などの障害が発生することをあらかじめ想定し、発生時の被害を最小限に止めるよう工夫しておく設計思想をいう。
	不活性ガス	化学反応（爆発等）を起こしにくい気体をいう。
	復水	水蒸気を冷却、凝結させて水に戻すことをいう。
	富酸素燃焼	燃焼用空気に酸素を富化し、ごみの燃焼を強め灰の性状の向上やダイオキシン類の低減を図る燃焼法をいう。
	物質収支	ごみ処理における物質（ごみ、残さ、金属類、薬品等）の出入り（収支）をいう。
	プラスチック製容器包装	商品を入れたもの（容器）や、包んだもの（包装）であり、中身の商品を取り出した（使った）後、不要となるプラスチック製のものをいう。
	プラズマ	温度が上昇すると，物質は固体から液体に，液体から気体にと状態が変化する。気体の温度が上昇すると気体の分子は解離して原子になり、さらに温度が上昇すると原子核のまわりを回っていた電子が原子から離れて、正イオンと電子に分かれる。この現象は電離と呼ばれ、電離によって生じた荷電粒子を含む気体をプラズマと呼ぶ。

	用　語	解　説
は行	プーリ	滑車をいう。
	ブリッジ現象	粉体の粒子がホッパの排出口でアーチを形成し、粉体が排出されない現象をいう。
	プロジェクトファイナンス	プロジェクトにおいて資金調達を行う際、事業者自身が借入を行うのではなく、プロジェクトを遂行するPFI事業会社(特別目的会社：SPC Special Purpose Company）を設立し、この会社を事業者として独立して借入を行う資金調達の仕組みをいう。
	分散型自動制御システム（DCS）	制御システムの一種で、制御装置が中心に1つあるのではなく、システムを構成する機器ごとに制御装置がありネットワークで接続され、相互に通信し監視し合うシステムをいう。
	ベースメタル	埋蔵量・産出量が多く、精錬が簡単な金属をいう。鉄・銅・亜鉛・すず・アルミニウムなど。
	ベンゼン核（ベンゼン環）	最も単純な芳香族炭化水素である。原油に含まれており、石油化学における基礎化合物のひとつをいう。 ベンゼン：無色透明の芳香を有する液体。揮発性が高く、発がん性のある物質。
	ベンチュリー	流体の流れの断面積を狭めて流速を増加させると、圧力が低い部分が作り出される現象をいう。
	ボイラ効率	燃焼によりボイラに入る熱（入熱）と蒸気として持ち出される熱（出熱）の比率をいう。 ボイラ効率（%）＝出熱/入熱×100
	包括的運営管理委託	公共施設の運営管理について、民間事業者が施設を適切に管理運営し、一定の条件を確保できれば、方法など詳細については民間事業者の裁量に任せるという、性能発注の考えに基づく委託方式をいう。
	芳香族	炭素と水素からできている化学物質の中で、物質の構造にベンゼン核を持つ化合物。代表的なものに、ベンゼン、トルエン、キシレン、ナフタレンなどがある。
	防火地区	建築基準法第22条第1項の規定により指定した区域で、建築物の屋根や外壁に一定の防火性能を確保させ、市街地の建築物の火災による延焼等の防止を図る区域をいう。
	飽和温度	排ガス中の成分が、液体化する時の温度をいう。

	用　語	解　説
ま行	マス	大きなかたまり、密集、集団、集まりをいう
	マテリアルリサイクル推進施設	環境省の交付要綱上の正式名称で、リサイクルセンターをいう。「マテリアル」は「物質・材料」を意味する。
	マンマシンインターフェース	人間と機械が情報をやり取りするための手段や、そのための装置・ソフトウェアなどの総称をいう。
	名目価値	将来に発生する価値を現在の価値に換算する現在価値に対し、特に、割引率を考慮しない状態の価値のことをいう。現在価値の説明内容に示す「t年後のR円」のR円のことをいう。
	メタンガス化施設	可燃ごみとして焼却処理されていた生ごみ等の有機性ごみを分別回収または選別してメタン発行させ、バイオマスエネルギーとしてメタンガスを回収する施設をいう。
や行	山元還元	被処理物の溶融処理によって発生する溶融飛灰から、非鉄金属を回収し再使用する一連の操作をいう。
	有効煙突高さ	煙突から排出されるガス、それ自身が持つ熱と吐出速度による運動量により一定高さまで上昇した高さのことをいう。この高さまで上昇した後に、風による大気拡散を始める。
	有効熱量	ごみ焼却施設内外へ供給された熱量のうち、供給先で有効に熱利用された分の熱量をいう。
	ユーティリティー	用役と訳され、施設の運転に必要な電気、水、空気、燃料などのライフラインをいう。
	ユニバーサルデザイン	「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることをいう。
	容積率	敷地面積に対する建物の延べ床面積の割合をいう。
	用途地域	都市計画法の地域地区のひとつで、その利用目的によって区分し、建築物に対するルールを決め、土地の合理的な利用を図るために指定された地域をいう。
	溶融スラグ	ごみの焼却灰を 1200℃以上の高温で溶融して生成されるガラス上の固化物をいう。土木･建設資材として有効利用がなされている。なお、「スラグ」の本来の意味は金属を精錬する際に発生する「残さ」や「かす」である。

	用　語	解　説
ら行	ラミネート加工紙	耐水性、耐油性、熱封緘性などを付与するために、片面または両面にプラスチックの薄膜や金属箔などを接着剤で張合せ、積層した紙または板紙をいう。
	リサイクルセンター	廃棄物の資源化関連事業を行う施設をいう。 燃やさないごみ･粗大ごみ等から鉄･アルミニウム等の金属、ガラスカレット､生きびん等の回収･資源化を行うとともに、不用品の補修、再生品の展示・販売等も行っている。
	リサイクルプラザ	リサイクルセンターの中で、不用品の補修機能、環境学習等の循環型社会形成のための啓発活動を行うための機能を有する場をいう。
	リターナブルビン	繰り返し使用（リユース）できる瓶をいう。
	リニアモータ	回転式のモーターを直線状に引き延ばしたもので､推進用のコイルに相当し､この上の磁石に推進力を与えるシステムをいう。
	緑化率	緑が不足している市街地などにおいて､一定規模以上の建築物の新築や増築を行う場合に､敷地面積の一定割合以上の緑化を義務づける制度をいう。
B	ＢＯＤ（生物化学的酸素要求量）	「Biochemical oxygen demand」の略。 水の汚染を表す指標のひとつ｡好気性微生物が一定期間中に水中の有機物（汚物）を酸化・分解する際に消費する溶存酸素の量をいう。
C	ＣＣＤカメラ	「Charge Coupled Device」の略で、CCDイメージセンサを使用したカメラをいう｡防犯カメラや監視カメラ等に使用されている。
D	ＤＢＯ	「Design Build Operate」の略で、公共が調達した施設整備費を活用して民間事業者が施設を整備した後､管理運営も民間事業者が行う方式をいう。
G	ＧＬ	「Ground level または　Ground line」の略。 地盤面のことで垂直方向の寸法計測の基準となる地盤高さをいう。建築物の高さを決めるための基準となる。
I	ＩＴＶ装置	工業用の監視カメラシステムをいう。 施設内の各設備等に設置され、包括的な監視ができる。
J	ＪＶ	「Joint Venture」の略語。 複数の異なる企業等が共同で事業を行う組織をいう。

	用　語	解　説
K	K値規制	施設ごとに煙突の高さに応じた硫黄酸化物許容排出量を求める際に使用する大気汚染防止法で定められた定数をいう。K値は地域ごとに定められており、施設が集合して設置されている地域ほど規制が厳しく、その値が小さい。
L	ＬＣＣ	「Life Cycle Cost」の略で、施設建設費、運営管理費（運転費、点検補修費）、解体費を含めた廃棄物処理施設の生涯費用の総計をいう。
	（ＬＣＤ）オペレータコンソール	操作員としてのオペレータとデータ処理システムとの間の交信に使われ、プログラムや周辺装置の動作を制御したり、情報を得たりするのに使用する装置をいう。スイッチ盤、表示ランプ、ディスプレイから成る。
	Ｌｏｗ-Ｅガラス	「低放射＝Low Emissivity」の略。 板ガラスの表面に酸化鈴や銀などの特殊金属膜をコーティングしたもので、断熱性能、遮熱性能がある。
M	m^3N	0℃、1気圧下での気体体積を表す単位をいう。
N	ｎｇ（ｐｇ）	10 億分の1グラムを表す重さの単位をいう。（pg は1兆分の１グラム）
P	ＰＣＢ	ポリ塩化ビフェニル（polychlorinated biphenyl）またはポリクロロビフェニル(polychlorobiphenyl) 熱に対して安定で、電気絶縁性が高く、耐薬製に優れているが、生態に対する毒性が高く、脂肪組織に蓄積しやすい。発がん性があり、また、皮膚障害、内臓障害、ホルモン異常を引き起こす。
	ＰＥＴ	「ポリエチレンテレフタレート＝polyethylene terephthalate」の略で卵パックや油・しょうゆのボトル等に利用されている材料をいう。
	ＰＦＩ	「Private Finance Initiative」の略で民間資金、経営能力及び技術的能力を活用して公共施設等の建設、維持管理、運営を行う方法で、地方公共団体が発注者となって行う、公共事業の方式をいう。
	ｐＨ	酸性とアルカリ性の度合を0～14までの数字で示したものをいう。中間のpH7を中性、それより大きい値をアルカリ性、小さい値を酸性という。

	用　語	解　説
Ｐ	ｐｐｍ	「Parts Per Million」の略である量が全体の100万分のいくつを占めるかを表す単位をいう。
	ＰＰＰ	「Public Private Partnership」の略で民間事業者が政策などの計画段階から参加する方式をいう。
	ＰＳＡ	「Pressure Swing Adsorption」の略で圧力変動吸着をいう。
	ＰＳＣ	「Public Sector Comparator」の略でVFM算定の基準額をいう。
	ＰＶＣ	「ポリ塩化ビニル＝polyvinyl chloride」の略で柔軟性に富み加工しやすく、また経年劣化も少ない材料をいう。 上下水道管やラップフィルムに利用されている。
Ｒ	ＲＤＦ	「Refuse Derived Fuel」の略で、ごみを固形燃料化して、環境保全とエネルギー資源確保を同時に実現する技術。石炭並みの発熱量と石炭に近い安定した燃焼が可能で、ダイオキシン発生量を低く抑えられる特徴があるほか、RDF化によって元のごみ重量の半分程度となり運搬が容易になるとともに、長期保管も可能になるなどの特徴が注目を集めている。
	ＲＯ膜処理（逆浸透膜処理）	「Reverse Osmosis Membrane」の頭文字をとってRO膜処理と言われる。ろ過膜の一種であり、水を通しイオンや塩類など水以外の不純物は透過しない性質を持つ膜をいう。 【主な除去物】 塩分･重金属イオン･溶解シリカ･その他電解物質・非電解物質アンモニア性･硝酸性窒素･細菌類・変異原性物質・有機及び有機塩素化合物(DDT､PCB､トリハロメタン､ダイオキシン､トリクロロエチレン､各種農薬類)
Ｓ	ＳＰＣ	「Special Purpose Company」の略で特別目的会社。ある特別の事業を行うために設立された事業会社をいう。実施する事業を限定した会社で、その他の事業展開はできない。当該事業以外の事業の不振が原因で、当該事業のサービス低下や事業が中断することを避けるため、PFI手法及びDBO方式を採用する発注側がSPC設立を義務付けることが多い。
	ＳＳ（浮遊物量）	水中に懸濁している不溶解物質をいう。JISでは懸濁物質、環境基準や排水基準では浮遊物質といい、2㎜のふるいを通過し1μmのろ過材上に残留する物質と定義されている。 100㎜異常のものを異物、100～2㎜のものを固形物と規定している。

	用　語	解　説
Ｖ	ＶＦＭ	「Value for Money」の略で、支払い（Money）に対して最も価値の高いサービス（Value）を供給する考え方をいう。 算式：VFM(%)=(PSCのLCC現在価値-比較対象のLCC現在価値 ×100)
Ｗ	ＷＴＯ政府調達協定	多国間での自由な貿易を促進するため、1996年に発効した国際的な約束をいう。政府調達に国外企業が参入しやすくなるように、一定の基準額以上の物品やサービスの調達に際して、所定の手続を採ることを定めたものである。